2024 年　桜蔭中学　国語 解答

大問一
問一　A　精査　　B　定時　　C　建前　　D　神経

問二
さまざまな人生を生きてきた人たちの感情は同じであるはずはないのに、その感情を相手に理解できる言葉で表現すると、同じ言葉を発した人たちの感情まで同じであるかのように思えるということ。

問三

話す言葉は相手が目の前におり、雰囲気を崩さないように言葉を選んだ結果、自分の本当のの言葉ではなくなってしまうが、WEB の日記が現実の人付き合いではなく、他人にはわからない言葉のまま存在感を発揮していたのを見て、本当の感情を自分の言葉で表すときには書き言葉が適していると感じたから。

問四
詩の読み手と書き手が完全にわかりあうことはできないし、その必要もないが、日ごろ他者に共感や理解を求めている読み手に、わからなさという違和感が強く残ることで、読み手が忘れかけていた自分の真実を思い起こしてくれることに、詩を書く喜びを感じている。

大問二
問一　A　道楽　　B　年配　　C　素養

問二　ア　足　　イ　顔

問三
育ての親や夫が死んだ後、鶴来を出てこれまでとは違う人生を始めようと思い、取引先への挨拶回りに神戸を訪れていたとき、たまたま「海会堂書店」という看板が目にとまり、そのよい名前と船舶関係の書籍を充実させた品揃えに興味をもち、また、子供の頃母親に大きくなったら船に乗って自由にどこへでも行けばいいと言われたことを思い出し、社長に頼んで雇ってもらい、この書店で働きながら新しい生活を送りたいと思ったから。

問四

働き始めた当時、画家のことはわからなかったので本を読んだり展覧会を見たりして勉強していたが、杣田社長の言葉で、日の当たらない所で活動する無名の画家達や、彼らが命がけで描いた絵と向き合い、共感することが大事だと分かり、自分も命がけで向き合おうと決意している。

問五
ジーンズ会社に居る意味がなくなったと感じた祖母が、本屋で杣田社長のギャラリーを手伝うことで居場所を見つけ、本屋に居場所をなくした杣田と一緒に新しいギャラリーを作って画家達の居場所を確保し、そこが祖母と杣田の居場所でもあるという話を聞いて、「居場所」というものが人の縁で結ばれた大切な物であることを痛感したから。